(PNF-T3)

FAMICOM FAMILY

任天堂ファミリーコンピュータ™

谷川浩司の
将棋指南Ⅲ

R58V5921

PONY CANYON

ご使用の前に取扱い方、使用上の注意等、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しい使用法でご愛用ください。
なお、この「取扱説明書」は大切に保管してください。

●使用上の注意

1)精密機器ですので、極端な温度条件下での使用や保管および強いショックを避けてください。また絶対に分解しないでください。
2)端子部に手を触れたり、水にぬらすなど汚さないようにしてください。故障の原因となります。
3)シンナー・ベンジン・アルコール等の揮発油ではふかないでください。
4)テレビ画面から、できるだけ離れてゲームをしてください。
5)長時間ゲームをする時は、健康のため約2時間ごとに10分~15分の小休止をしてください。

●御使用後は、ACアダプターをコンセントから必ずぬいておいて下さい。

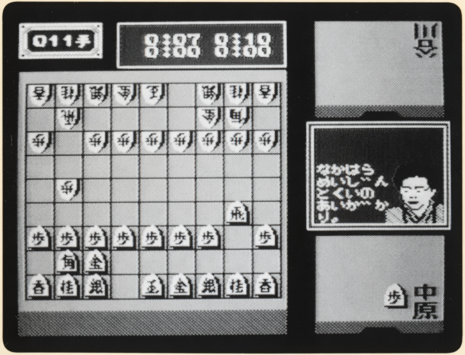
谷川浩司の将棋指南Ⅲ

もくじ

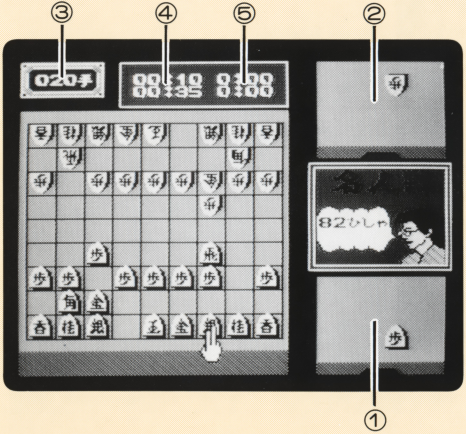
☖タイトルメニューの説明…………2
☖「対局」画面の説明…………4
☖「対局」のキー操作…………5
☖成らない場合…………6
☖駒の持ち方…………6
☖拡張機能の説明…………7
☖はさみ将棋…………8
☖スロット将棋…………9

I. タイトルメニューの説明

	モード	内容	プレイの種類	拡張機能
5つのモード	対　局	本将棋の練習・研究モード。レベルは２段階。	１プレイ ２プレイ	９種類
	名人戦	谷川名人と七番勝負。４勝すれば表彰される。	１プレイ	セーブ、ロード、曲選、投了
	はさみ将棋	自分の駒で相手の駒をはさみ取るゲーム。	１プレイ ２プレイ	９種類
	スロット将棋	本将棋だが、スロットで出た駒だけ動かせる。	１プレイ ２プレイ	な　し
	棋譜鑑賞	谷川ＶＳ中原誠の第46期名人戦６局をすべて収録。	ウォッチ	な　し


011手
なかはら
めいじん
とくいの
あいがか
り。
中原

Ⅱ.「対局」画面の説明



①あなたの駒台

②コンピュータ側の駒台

③指し手数

④現在の考慮時間

　上……コンピュータ

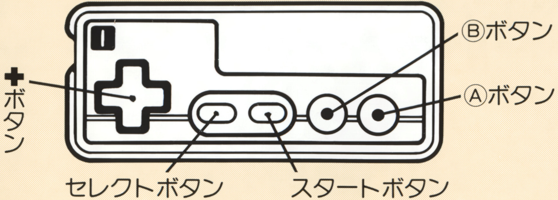
　下……あなた

⑤今までの考慮時間

　上……コンピュータ

　下……あなた

Ⅲ.「対局」のキー操作



✚ボタン…………指の移動

Ⓐボタン…………駒を持つ(あるいは駒を置く)

Ⓑボタン…………●駒を持っている場合、駒をもとの位置に戻す

●駒を持ってない場合、駒台に指を移動する

スタートボタン…やりなおし

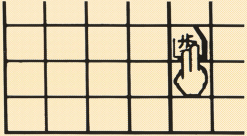
セレクトボタン…拡張機能表示

Ⅳ. 成らない場合

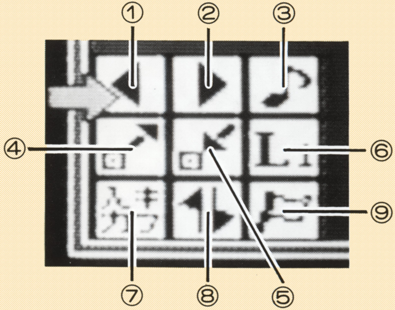
駒が成れる状態の時、自動的に成り駒の表示になって点滅します。✚ボタンの左側を押して下さい。そうすると成る前の駒に表示が変わります。その後、Ⓐボタンで決定です。

Ⅴ. 駒の持ち方

図のように指だけを、動かしたい駒の上にのせてⒶボタンを押します。



Ⅵ. 拡張機能の説明

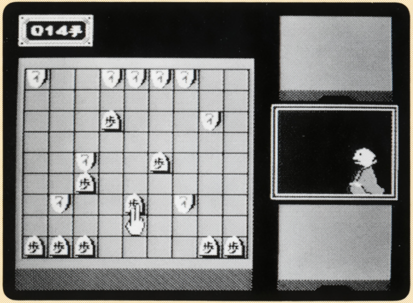


対局の途中でセレクトボタンを押すと図のようなアイコンが表示されます。

①手戻し
②再現
③選曲
④ロード(保存した棋譜を読み込む)
⑤保存(5局まで可、一局200手まで)
⑥レベル変更
⑦キフ入力
⑧盤面反転
⑨終局(投了)

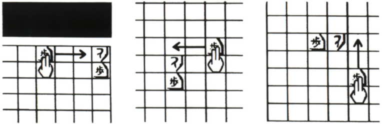
注意 「名人戦」では一局勝った後、⑨終局（投了）マークを選び、Ⓐボタンを押して、次の対局へ進んで下さい。

Ⅶ. はさみ将棋

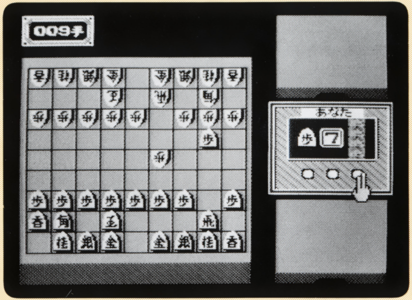


駒をタテとヨコに動かし、相手の駒をはさめば、その駒を取り除くことができます。相手の駒を6個取ればあなたの勝ちとなり、次の対戦では、あなたの駒は8個からスタートすることになります。

駒の取り方



Ⅷ. スロット将棋



スロット将棋とは、スロットで出た目の駒だけ動かすことができる将棋です。7が3つそろうとスロットを7回まわすことができます。つまり、7回連続で指すことができます。ただし、途中で「王手」をかけるとたとえ、あと5回残ってたとしてもその時点で終了します。

●メモリバックアップ機能付カセット取扱注意

このカセット内部には、ゲームの途中経過等をメモリ（記憶）しておくバックアップ機能があります。ファミコン本体のリセットスイッチを押しながら、電源スイッチをＯＦＦにすると、メモリの内容がバックアップされます。

尚、下記の注意をお守りください。

1. 本体の電源を入れたままで、カセットを抜き差ししない。
2. むやみに電源スイッチをON･OFFしない。

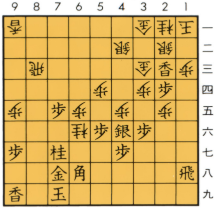
——色紙プレゼント——

名人戦で谷川浩司に勝った棋譜（最短手数の１局のみ）を同封のアンケートハガキに書いて送り下さい。一番手数の短い人から順に毎月30名様に、谷川浩司直筆の色紙をプレゼントします。

（有効期限……1989年12月31日　当日消印有効）

第5図は△6六桂まで

▲先手 谷川 持駒 角 桂 歩



△後手 南 持駒 金 銀 香 歩四

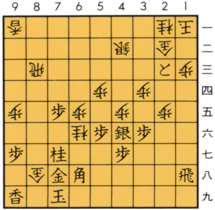
▲2三香 △8三飛
▲7九玉 △6六桂
(5図)

▲2三香と打ち込んだが、後手は△8三飛と待望の反撃。そして△6六桂まで、どうやら筋に入ったようだ。

▲2二香成 △同金
▲2三桂 △同金寄

第6図は△8八金まで

▲先手 谷川 持駒 角 金 銀 歩



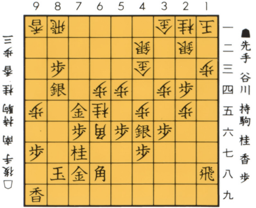
△後手 南 持駒 銀 桂 香一 歩四

▲同歩成 △8八金 (6図)まで南棋聖(当時)の勝ち。

6図以下▲同金は△同飛成▲同玉△8六香で即詰み。

A級順位戦全九局、いかがでしたか。寄せの参考にしていただければ幸いです。上達を祈っております。

第1図は△4五歩まで



A級順位戦最終局は〝地蔵流〟こと、関西の南王将（当時棋聖）との一戦。実はこの一局に負けて、全勝優勝を逃したのが残念だった。1図はその終盤戦、△4五歩と桂を取りながら銀に当てられた局面。

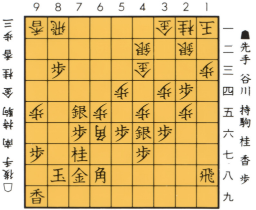
ここでは駒損なのですでに私の方が指しにくいが、楽しみは2四の地点にタラしてある歩。これを拠点に何か手を作りたいが。

▲6五金　△同歩

▲7五銀（2図）

2三に打ち込みを狙って桂を取り、角に当てて銀を引いたが…。

第2図は▲7五銀まで



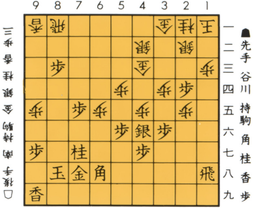
△7五同角

▲同歩　（3図）

角を3三に逃げてくれれば▲4五銀でおもしろいが、そんなこちらの言い分を通してくれるような相手ではない。

角銀交換を平然とされ、次の一手が実に渋い南流の好手だった。

第3図は▲7五同歩まで

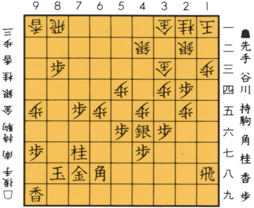


△3三金

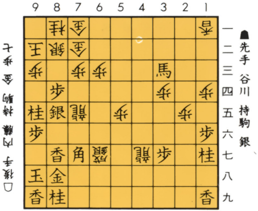
（4図）

△7六桂とか、△8六香など攻めたい手がたくさんあるのに、じっと自陣に手を戻す金寄り。これにはまいった。後手の穴熊が堅く見える。

第4図は△3三金まで



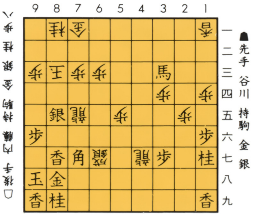
第1図は△6七銀成まで



第8局は〝自在流〟内藤九段との一戦。内藤九段の中飛車穴熊に私が玉頭位取りで対陣して激しい攻防の末、1図の局面となった。すでに終盤戦、私の指した次の一手はもっとも皆さんの好きな手ではなかろうか。

▲8三銀　△同金

第2図は△8三同玉まで

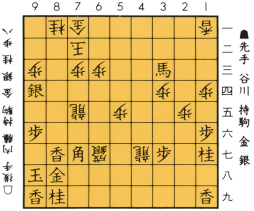


▲同歩成　△同銀
▲同桂成　△同玉

8三の地点に8七の香も含めて、かなり殺到できる形である。ロコツに▲8三銀と打ち込めば、必然的に2図となる。

ここで次の一手を考えていただきたい。

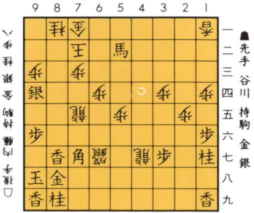
第3図は△7二玉まで



2図から▲8四銀打と王手龍取りをかける手もあるが、△7三玉と逃げられてやや重い。単に▲8四銀も△同龍▲同香△同玉で大変。ひと目で見つけていただきたい一手は。

▲9四銀　△7二玉
（3図）

第4図は▲5二馬まで



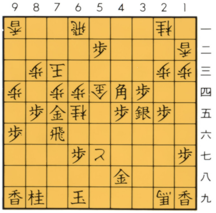
これで8七の香がいっぺんに通ってきた。さらに左辺に玉を逃がさない手は。

▲5一馬　△6四歩
▲5二馬（4図）まで谷川の勝ち。

▲8三銀成などと追わないで挟撃するのが正しい寄せ方である。

第3図は▲7五金まで

▲先手 谷川 持駒 金銀二桂歩



△後手 大山 持駒 銀 歩二

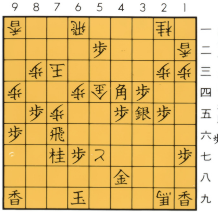
▲7三歩 △同玉
▲7五金 （3図）

▲7三歩が攻めに勢いをつける一手。△同玉に▲7五金と桂を取って3図。△同歩なら▲7四歩△同玉▲6六桂以下の即詰み。決まったかに思えるが。

△7七桂不成

第4図は△7五歩まで

▲先手 谷川 持駒 歩 金 銀二 桂二



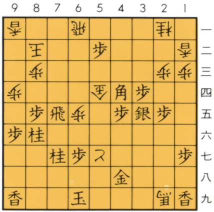
△後手 大山 持駒 金 銀 歩二

▲同桂 △7五歩
（4図）

大山十五世は△7七桂不成と捨て駒で、遠く2九の馬を7四の地点に効かせてきた。もちろん自玉は詰めろだし、馬を引きつけて粘られると厄介。粘らせない寄せ方を問う。

第5図は△8二玉まで

▲先手 谷川 持駒 金 銀 歩



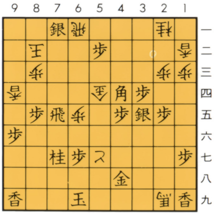
△後手 大山 持駒 金 銀二 桂 歩三

▲6五桂打 △同歩
▲7四歩 △6四玉
▲7三銀 △7四玉
▲8六桂 △7三玉
▲7五飛 △8二玉
（5図）

馬を引きつけさせない▲6五桂打が好手。以下王手の連続で5図まで。ここで後手玉に即詰みがあるが、詰手順を発見できましたか?

第6図は▲7一銀まで

▲先手 谷川 持駒 金 歩二

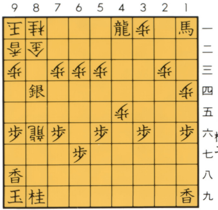


△後手 大山 持駒 金 銀二 桂二 歩三

▲9四桂 △同香
▲7一銀 （6図）まで谷川の勝ち。

6図以下△9三玉なら▲9二金△同玉▲7二飛成△9三玉▲8二龍まで。きわどい終盤だった。

第5図は△8二同金まで



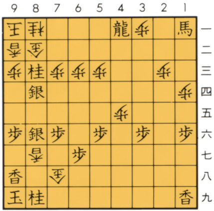
☗先手 谷川 持駒 角 桂二 金 銀二

△後手 森 持駒 金二 銀 歩四

☗8二歩成 △同金上
☗8三歩 △8六龍
☗8二歩成 △同金（5図）

このように歩だけで金銀を取る気持ちのよい攻めが決っては、勝負あったの感があります。しかし森九段は△8六龍と香を取り、一発狙っています。慎重に。

第6図は☗8三桂まで



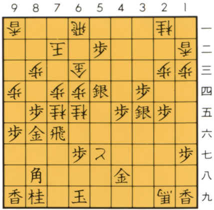
☗先手 谷川 持駒 飛 角 金 銀 桂

△後手 森 持駒 金 銀 歩四

☗7五銀打 △8七香
☗8六銀 △7八金
☗8三桂（6図）まで谷川の勝ち。

☗8三桂と打って△同金に☗7二金でも勝ちみたいですが、△8七桂でトン死。攻め駒（龍）を攻める☗7五銀打が決め手でした。

第1図は△5七歩成まで



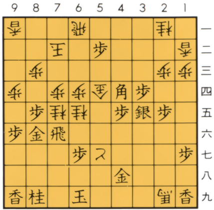
☗先手 谷川 持駒 金 銀二 歩二

△後手 大山 持駒 歩

第7局は大山十五世名人との一戦。〝不沈艦〟とも〝二枚腰〟とも呼ばれる大山城をどう攻略しましょうか。1図は△5七歩成と、と金を作って手駒が入れば詰ますぞと迫った局面。一見負けのようですが……。

☗4四角 △5四金

第2図は△5四金まで



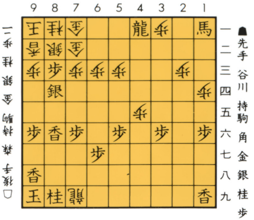
☗先手 谷川 持駒 金 銀二 歩二

△後手 大山 持駒 歩

（2図）

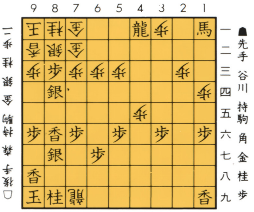
私は☗4四角と出て、次に☗6三銀成以下の即詰みを狙った。後手は当然△5四金と銀を払ってきたが、これは読み筋。自陣の飛車と金を協力させて攻略したい。さて、スピード感ある寄せは？

第１図は△７九龍まで



第６局は〝終盤の魔術師〟のニックネームのある森九段との一戦。相穴熊の激闘の末、１図となりましたが、ひとつ受けを間違うといっぺんに奈落の底へ突き落とされてしまいます。皆さんも私になったつもりで考えて下さい。

第２図は▲８七銀まで



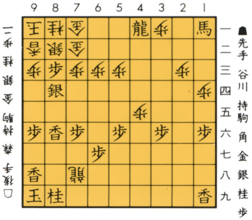
▲８七銀（２図）

まず浮かぶのは▲８八銀ですが、それには後手の好手△７八金があります。

（▲７九銀には△８七桂）

▲８七銀が盤上この一手の受けで、遠く１一の馬と連携できわどく後手の攻めを受け止めています。

第３図は△７八同龍まで



△７八銀

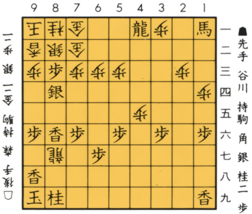
▲同銀　△同龍（３図）

森九段は執拗に△７八銀と絡んできました。▲同銀△同龍まで、龍の位置が変わったことに注目して次の一手を考えて下さい。

▲８八金　△８七桂

▲同金　△同龍

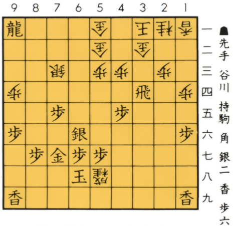
第４図は△８七同龍まで



今度は▲８八金と龍に当てる手が効きます。後手も龍を逃げていては全く話にならないので△８七桂以下攻めをつないできますが、４図は私の玉に即詰みがなくなっています。

さあ、いよいよこちらが攻める番です。

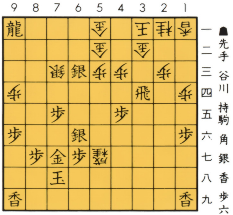
第3図は△5八成桂まで



▲5二角成　△3四銀
▲同飛　△5二金
▲6一飛成　△5一金打
▲9一龍　△5八成桂
（3図）

一番早い寄せとは▲2二角と打つ手で、これなら寄ってました。本譜は少し長引きました。さて△5八成桂の王手には。

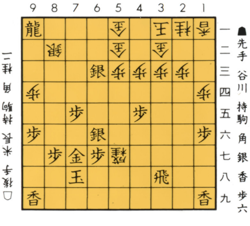
第4図は▲6三銀まで



▲7八玉　△5七成桂
▲6三銀（4図）

▲5八同玉と取ると△2五角の王手飛車。このようにタダで駒を捨ててくる場合は要注意です。4図、▲6三銀で寄せ形に入りました。

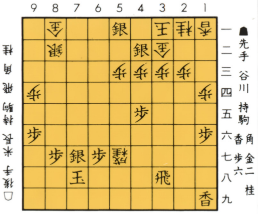
第5図は△8二銀まで



▲3八飛　△3三歩
△8二銀
（5図）

米長九段は△3三歩と頑張ります。私も無理をしないで▲3八飛と引き上げましたが、△8二銀がドキッとする手。取るべきか、取らざるべきか。

第6図は▲4二銀打まで

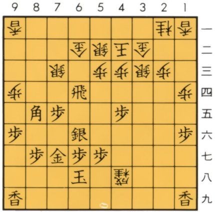


▲8一龍　△8五桂
▲5二銀不成　△7七桂成
▲同銀　△7一金
▲5一銀不成　△8一金
▲4二銀打（6図）まで谷川の勝ち。

6図以下、△4二同金なら▲3三飛成。△2二玉なら▲1三金以下詰みです。

第1図は△7三銀まで

▲先手 谷川 持駒 飛角桂歩五



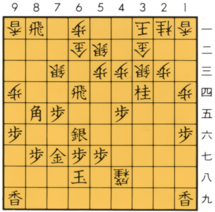
△後手 米長 持駒 金桂歩

順位戦も中盤、第5局はさわやか流とも泥沼流とも恐れられる米長九段との対戦です。1図はすでに私の方が優勢ですが、飛車を取られると△5八飛以下の詰みがあり、うかうかできません。

▲3四桂　△3一玉

第2図は△6一歩まで

▲先手 谷川 持駒 角歩五



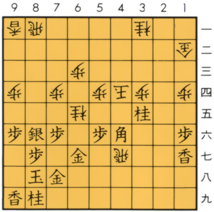
△後手 米長 持駒 金桂

▲8一飛　△6一歩
（2図）

▲3四桂に△同銀は▲同飛で、大駒が助かって後手の指し切り。そこで△3一玉と逃げますが、▲8一飛と王手！△6一歩にここで私は一番早い寄せを逸してしまいました。

第5図は△4七飛まで

▲先手 谷川 持駒 角銀二歩四



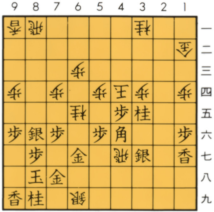
△後手 桐山 持駒 金銀香歩三

この△8六歩は基礎編にも出てきた矢倉攻略の手筋で、やっかいな歩なのです。▲8六同歩は△8七歩と叩かれ、▲同玉△4九飛とイヤな展開になります。

▲4四金　△同玉
▲8六銀　△4七飛
（5図）

第6図は▲4五歩まで

▲先手 谷川 持駒 角銀歩三



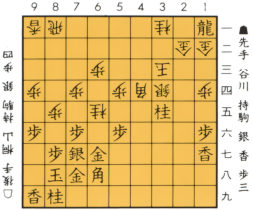
△後手 桐山 持駒 金香歩三

私は禍根である角を取り、▲8六銀と歩を払いました。こちらの方が堅いと思ったからです。続く△4七飛に。

▲3七銀　△6九銀
▲4五歩（6図）まで谷川の勝ち。

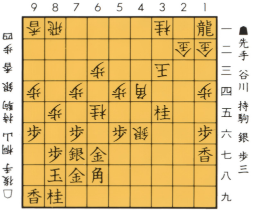
6図で攻防共に見込みなしと、桐山九段は投了。

第1図は△1二金打まで



第4局は、玄人受けする渋い受けを連発する関西の桐山九段との対局。相矢倉で始まった本局だが、私が飛車を成って進入したのに対し、1図は△1二金打と桐山九段が龍を生け捕りにきた局面。冷静に急所を見極めなければダメです。

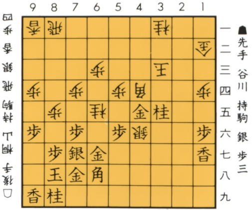
第2図は△4六同銀まで



▲4五歩　△同銀
▲4九香　△4六歩
▲同香　△同銀（2図）

後手の狙いは、龍を取った後、上部を開拓して入玉を目指すことです。逆にいえば上部を開拓させてはダメなのです。そこで4筋から攻撃を仕掛けて……。

第3図は▲4五金まで

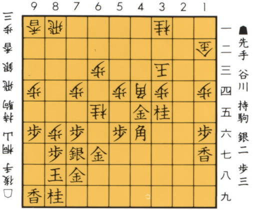


ここで平凡に▲4六同角と取るのは、△4五銀打以下紛れてしまいます。

▲1二龍　△同金
▲4五金（3図）

1一の龍も無条件に取られては大損なので、ここら辺りが切り時。そしてグッと▲4五金と押さえるのが好手。次に▲3四銀からの寄せを狙っています。

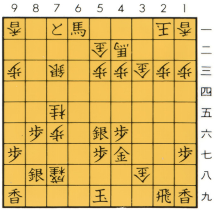
第4図は△8六歩まで



△3四歩
▲4六角　△8六歩
（4図）

桐山九段は〝敵の打ちたい所へ打て〟の格言通り△3四歩と打ち、▲4六角に△8六歩と待望の反撃です。

第1図は△3八金まで



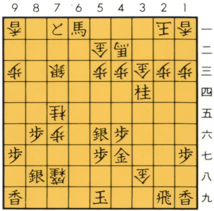
▲先手 谷川 持駒 飛 銀 桂 歩三

△後手 青野 持駒 桂 歩三

第3局は将棋界きっての研究家・青野八段との対戦になりました。1図、青野八段は△3八金とシバってきました。平凡な手では寄せられそうです。詰めろ、詰めろで迫らなければなりませんが。

▲3四桂（2図）

第2図は△3四桂まで



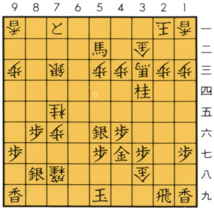
▲先手 谷川 持駒 飛 銀 歩三

△後手 青野 持駒 桂 歩三

とにかく△7七歩成がきては負けです。▲3四桂が狙っていた手。△同金なら▲5二馬と金を取り、△同馬なら▲2三飛成以下詰みで私の勝ち。

そこで青野八段は辛抱の一手を選びました。

第3図は△3三馬まで



▲先手 谷川 持駒 飛 金 銀 歩二

△後手 青野 持駒 桂 歩三

△3二金

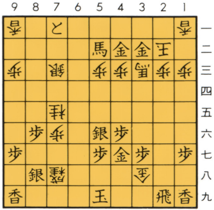
▲5二馬 △1五馬

▲3七歩 △3三馬

（3図）

△3二金はつらい辛抱ですが、▲4二桂成なら△同金右で頑張ろうというものです。△5二馬が好手。△同馬なら▲2二歩以下詰み。

第4図は△3二金打まで



▲先手 谷川 持駒 銀 歩

△後手 青野 持駒 飛 桂二 歩四

3図、△3三馬の頑張りに

▲2二歩 △同金

▲3一飛 △同玉

▲4二金 △2一玉

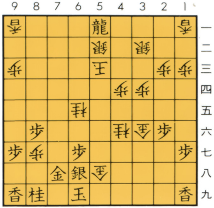
▲2二桂成 △同玉

▲3二金打（4図）まで谷川の勝ち。

▲2二歩から▲3一飛の寄せ方を参考に。

第3図は△5二銀まで

▲先手 谷川 持駒 飛 金 歩二



△後手 有吉 持駒 角 銀二 桂 歩五

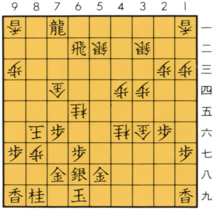
自玉はすでに受けがなくなったので、攻めるよりありません。

▲5三馬　△同玉
▲5一飛成　△5二銀
（3図）

自玉が受けなしならば王手の連続で詰まさなければなりません。3図まではこう進むものですが、ここからが問題です。

第4図は△8六玉まで

▲先手 谷川 持駒 なし



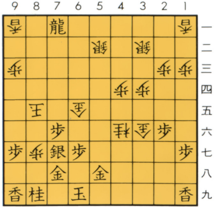
△後手 有吉 持駒 角 銀二 桂 歩七

▲6三金　△同玉
▲6二飛　△7四玉
▲7五歩　△同玉
▲7一龍　△7四金
▲7六歩　△8六玉
（4図）

2枚飛車の連携で…。

第5図は△6五同金まで

▲先手 谷川 持駒 桂



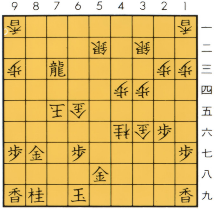
△後手 有吉 持駒 飛 角 銀二 桂 歩七

▲7七銀　△8五玉
▲6五飛成　△同金（5図）

手駒がないので、自陣の駒を使って王手を続けなければなりません。▲7七銀から▲6五飛成と桂を取って5図。あと一息で寄せ切ることができますが、次なる妙手は？

第6図は▲7三龍まで

▲先手 谷川 持駒 桂 歩

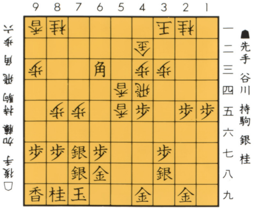


△後手 有吉 持駒 飛 角 銀二 桂 歩八

▲8六銀　△同玉
▲8二龍　△7六玉
▲8七金　△7五玉
▲7三龍（6図）まで谷川の勝ち。

▲8六銀が妙手。△8四玉は▲7五銀△8三玉▲9五桂以下詰み。難解な終盤でした。

第3図は▲4五歩まで



さて香車を釣り上げた意味は？

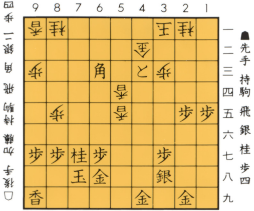
▲4五歩（3図）

そうです。この歩が突きたいからこその歩の連打でした。

△3四飛は▲4六桂で必勝。△同飛は▲5四角成、

△7六歩
▲4四歩 △7七歩成

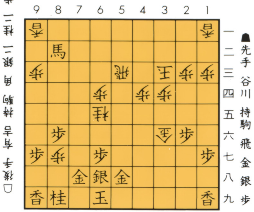
第4図は▲7七同桂まで



▲同銀 △7八歩
▲同玉 △7六歩
▲4三歩成 △7七歩成
▲同桂（4図）まで谷川の勝ち。

加藤九段も受けなしとみてか、本譜の順で形作りをされました。歩の連打が印象に残っています。

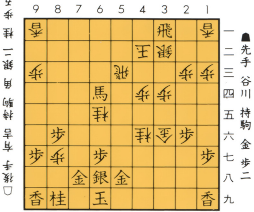
第1図は△3三玉まで



第2局は“火の玉流”で知られる、関西の有吉九段との一戦。なお解説の便宜上、第2・4・5・7・9局は私の後手番ですが、すべて先手番になっています。

1図はその終盤戦、ここでは次に△5八飛成以下の即詰みをみられて私の苦戦。

第2図は△4六桂まで

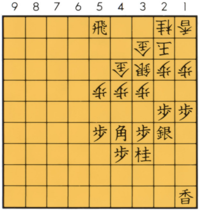


尋常な勝負では勝てそうにありません。

▲3一飛 △3二銀
▲4二銀 △同玉
▲6四馬 △4六桂
（2図）

▲4二銀から▲6四馬と間接的に△5八飛成を防ぎました。△4六桂には

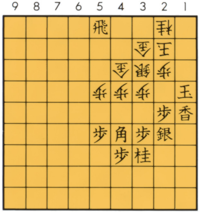
第1図



最後は一気に敵玉を即詰みに討ち取る攻めをご覧いただきましょう。1図理想的に端に殺到できる構えですが、さて。

▲1四歩　△同歩
▲1二歩　△同香
▲1三歩　△同香
▲同角成　△同玉

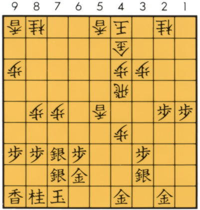
第2図は▲1五香まで



▲1四香　△同玉
▲1五香（2図）

端歩をついて▲1二歩がスピード感あふれる一手。さらに▲1三歩と叩き△同香に▲同角成が決め手で、以下2図まであっという間の即詰みとなりました。それでは実戦編に入ります。

第1図は△7五歩まで

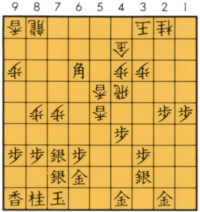


A級順位戦第1局は重戦車の異名をとる、加藤（一）九段との対戦になりました。

さてその終盤戦、私の陣地には金銀6枚がある珍形でかなりの堅さです。

それでも△5七香成が間に合ってくると危なくなるので、案外急がされているのも事実です。さてどこから手をつけますか。

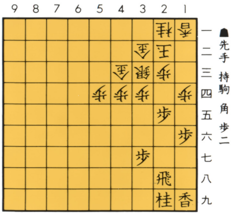
第2図は△5四同香まで



▲6三角　△3一玉
▲5二歩　△同香
▲5三歩　△同香
▲5四歩　△同香（2図）

▲6三角はすぐ発見できるでしょうが、5筋の歩の連打は苦心の一着でした。

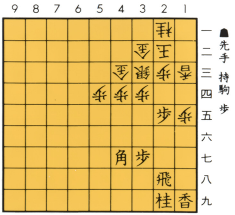
第1図



端攻めを3題紹介しましょう。どんな囲いにおいても端攻めは急所ですが、矢倉もやはり端から攻略される場合が多いのです。1図、端攻めに必要な桂馬もなく、まったく攻め込める気配がありません。しかしこんな形でも手はあるものです。

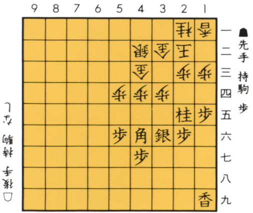
☗1五歩　☖同歩
☗1三歩　☖同香
☗4七角（2図）

第2図は☗4七角まで



☗1三歩と香車を釣り上げておいてからの☗4七角が好手。次に☗2四歩☖同銀☗1四歩☖同香☗同角の香得を狙っています。ちょっと浮かびにくい筋でした。

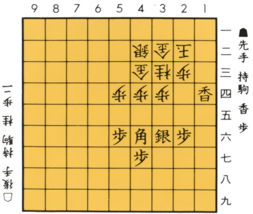
第1図



1図は☗2五桂と跳ねたのに対して☖4二銀と3三の銀を逃げたところ。端攻めを厳しくする手筋があります。

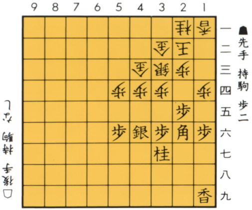
☗3三歩　☖同桂
☗1三桂成　☖同香
☗1四歩　☖同香
☗同香（2図）

第2図は☗1四同香まで



☗3三歩がこの形の急所。☖同桂と取った場合はその桂馬を取らずに、逆に☗1三桂成と成れば、2図の☗1四同香まで見事に端を突破できます。

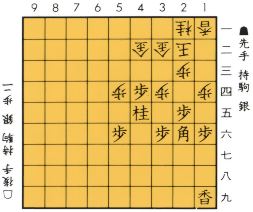
第1図



4筋から攻撃する方法を紹介しましょう。1図は持駒が歩2枚だけですが、果してこれで矢倉城を揺さぶることができるのでしょうか。

▲4五歩 △同歩
▲4四歩 △同銀
▲4五銀 △同銀

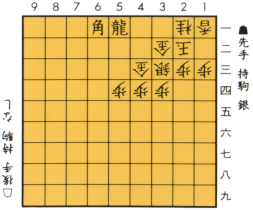
朝2図は▲4五桂まで



▲4四歩 △4二金引
▲4五桂（2図）

▲4五歩は当然として、△同歩に▲4四歩が急所。△同金なら▲4五桂があるので銀で取りますが、そこで▲4五銀とぶつけて△同銀に再度の▲4四歩が飛びます。このタイミングです。

第1図

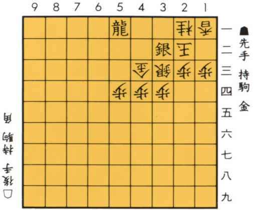


スカッとする寄せをご覧いただきましょう。1図、大駒2枚が敵陣深くに進入しています。持駒の銀と協力して、イッキに寄せ切る順があります。

▲4三角成 △同金
▲3二銀（2図）

▲4三角成の英断が急所。

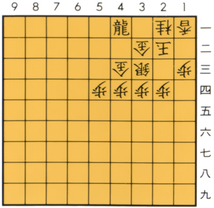
第2図は△3二銀まで



△同金よりありませんが、ここで寄せの手筋〝銀はハラから打て〟を地でいく▲3二銀が決め手で、受けがありません。すなわち放っておけば▲2一龍までの詰み。△同玉も▲3一金以下の即詰みです。一気に必至に持ち込む問題でした。

第1図

後手 持駒 なし



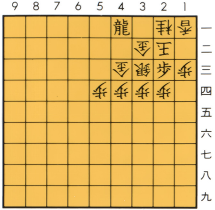
先手 持駒 歩

1図はしっかりした矢倉に見えますが、ちょっと変ではありませんか？

そうですね、普通の矢倉なら2三の地点に歩があるのに、2四歩となっていますね。これは中盤の戦いなどで攻撃側が2筋を突き捨てた場合によく出てきます。

第2図は☗2三歩まで

後手 持駒 なし



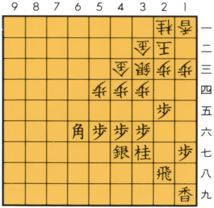
先手 持駒 なし

例題の場合、たった1歩しかありませんが、本当にこれだけであっという間に必勝形を築くことができるのです。

簡単でしょう。☗2三歩の王手！(2図)ハイそれまで。以下☖同玉は☗2一龍。☖金は☗2三龍…。

第1図

後手 持駒 なし



先手 持駒 歩

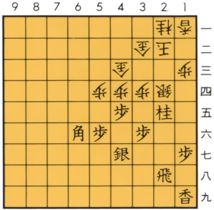
本題は実戦によく出てくる形です。ここからの攻め方を知っていれば、矢倉は簡単に攻略できるでしょう。

☗2四歩 ☖同歩
☗2五歩 ☖同歩
☗同桂 ☖2四銀
☗4五歩 (2図)

このように飛角が好位置にある場合は存分にその能力を発揮する攻撃が可能です。まず☗2四歩と突き、☖同銀なら☗4五歩と角の利き筋で攻めます。で☖同歩ですが☗2五歩のツギ歩が習いある手筋。以下2図まで、見事に攻めが成功します。

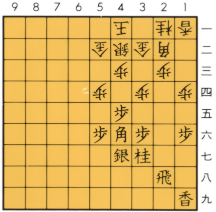
第2図は☗4五歩まで

後手 持駒 歩一



先手 持駒 歩

第１図

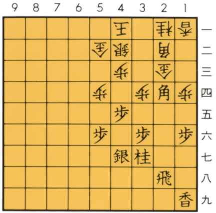


１図のような形も実戦でよく現れます。スピード感をつけて攻め込むのなら、この一手ともいうべき攻めがあります。

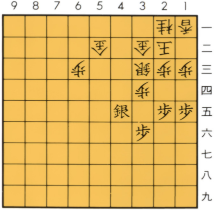
☗２四歩　☖同歩
☗２三歩　☖同金
☗２四角（２図）

角の頭は比較的薄く、常に狙いをつけてもよい場所です。☗２四歩から☗２三歩のタタキが急所。以下☖同金に角を飛び出し、次に成の狙いがあるので☖同金と取りますが、☗同飛と走って２筋突破は大成功。

第２図は☗２四角まで



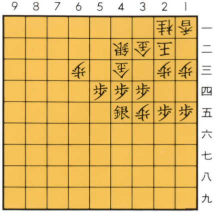
第１図



◎矢倉囲いの崩し方

いよいよ居飛車の最大の要塞・矢倉囲い攻略に入りたいと思います。ちょっとその前に１図をご覧下さい。まだ完ぺきな矢倉にはなっていませんが、ぜひ覚えていただきたい手筋がありますので参考までに。

第２図は☗４四歩まで

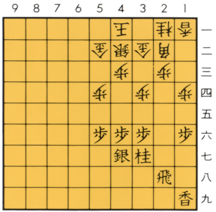


☗３五歩　☖同歩
☗３四歩　☖４二銀
☗４三歩　☖同金右
☗４四歩　☖５三金
☗５四歩　☖５二金
☗４三歩成　☖同金右

このような歩の使い方をダンスの歩と呼びます。

第１図

☗先手　持駒　歩三

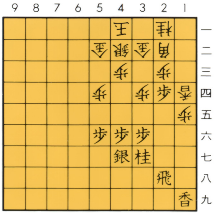


△後手　持駒　なし

本題の場合はどうでしょうか。先ほどの☗5五歩は2二の角が利いていて△同角と取られてしまいます。そこで二つの攻め筋を考えてみましょう。一つは☗2四歩△同歩☗2五歩△同歩☗2四歩の継ぎ歩＋タラシ歩で攻めるもの。これは以

第２図は☗２四歩まで

☗先手　持駒　なし



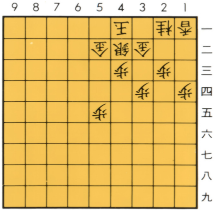
△後手　持駒　歩四

下△4四角☗2五飛△2二歩となりますが、2筋を詰めたことが大戦果。

もう一つは☗1五歩△同歩☗1三歩△同香☗1四歩△同香☗2四歩（2図）で、△同歩なら☗同飛で1四の香取りが受かりません。ぜひ覚えて下さい。

第１図

☗先手　持駒　角　銀　歩二



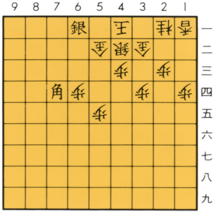
△後手　持駒　歩

美濃囲いの時もそうでしたが、玉のコビンというのはやはりこのカニ囲いでも急所です。特に角がある場合うまく攻めるといっぺんに致命傷になることがあります。

1図は☗5五歩△同歩と突き捨てたところだと思って下さい。さてここからの攻略法は

第２図は☗６一銀まで

☗先手　持駒　歩

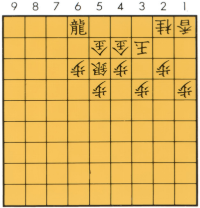


△後手　持駒　歩二

☗7四角　△6三歩
☗6四歩　△同歩
☗6一銀（2図）

コビンを狙う☗7四角打ちが急所。角利きを止める△6三歩にも本譜のように絡んで成功です。

第1図



▲先手　持駒　角　銀　香

△後手　持駒　金

持駒が角銀香と豊富な場合はイッキに攻略できます。1図、さあどこから手をつけるのでしょうか。後手の持駒に金があることに注意して考えて下さい。

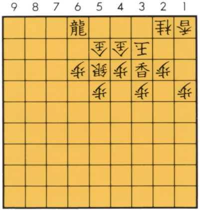
受け駒がない場合は▲2六香で十分なのですが、この場合は△5一金打とはじかれてしまいます。正解は▲3三香（2図）。これが焦点に香をタダで捨てる絶妙手で、あっという間に受けなしになってしまいます。

△3三同金は▲5二龍

△3三同玉は▲2一龍

△3三同桂は▲2一銀△2二玉▲3一角。

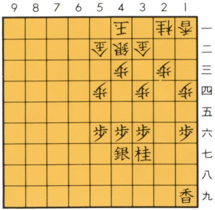
第2図は▲3三香まで



▲先手　持駒　角　銀

△後手　持駒　金

第1図



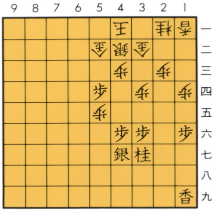
▲先手　持駒　歩

△後手　持駒　なし

◎カニ囲いの崩し方

カニ囲いとはあまり聞きなれない名称かもしれません。これは相居飛車の戦いで急戦になった場合など、矢倉に組むことができず簡略に囲ったものをそう呼びます。実戦で一度は見られたこともあると思いますが、1図のような構えで陣形が低く、結構粘りある形といえます。ただこの構えは1・2・5筋にやや欠点があり、そこを的確に攻めれば比較的簡単に攻略できます。1図の場合▲5五歩△同歩▲5四歩（2図）と拠点を作って次に▲4五桂です。

第2図は▲5四歩まで

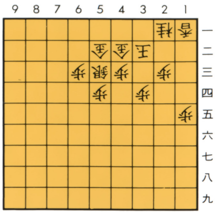


▲先手　持駒　なし

△後手　持駒　歩

第1図

後手 持駒 なし

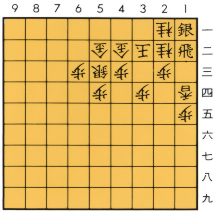


先手 持駒 飛 銀 桂

端から強引に突破する方法をご覧頂きましょう。持駒は飛車銀桂と豊富ですが、歩がありません。こんな場合、特に終盤でよく出てくる手筋です。

▲1四桂 △同香
▲1二飛 △2二桂
▲1一銀（2図）

後手 持駒 なし



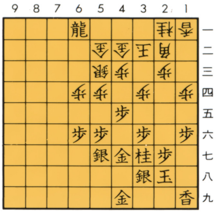
先手 持駒 なし

第2図は1一銀まで

▲1四桂と香車の効いているところに打つのが急所。放っておくと▲2二飛があるので△同香と取る一手ですが、▲1二飛から▲1一銀と絡んで2図、後手には適当な受けがありません。歩がない場合でも端攻めはあるのです。

第1図

後手 持駒 なし



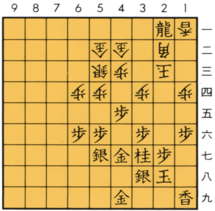
先手 持駒 桂（香）

舟囲い攻略には振り飛車側の構えも重要になってきます。例えば1図のように、高美濃囲いに囲っておいて、飛車が敵陣に進入した場合、おそらく桂とか香を手駒に加えていると思います。

例えば桂馬を持っている場合は▲4六桂あるいは▲2六桂と控えて打ち、次に▲3四桂の角金両取りを狙います。

香車を持っている場合は▲2六香と打ち、次に▲2三香なり△同玉▲2一龍（2図）と背後から攻めたてて攻略するのです。

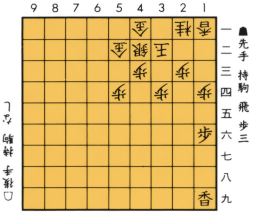
後手 持駒 香



先手 持駒 桂 歩

第2図は▲2一龍まで

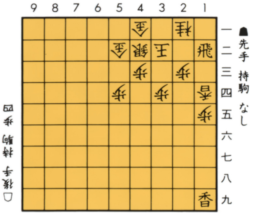
第1図



持駒に飛車がある場合はどうでしょうか。端攻めを絡めて攻める手筋があります。

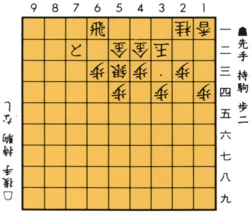
☗1五歩 ☖同歩
☗1二歩 ☖同香
☗1三歩 ☖同香
☗1四歩 ☖同香
☗1二飛（2図）

第2図は☗1二飛まで



美濃囲いで端攻めをされ苦渋をなめていた振り飛車も、逆に端攻めが決まればさぞかし気持ちのよいことでしょう。難しい手はありません。歩の連打から王手香取りまで、流れるような攻略ができました。

第1図



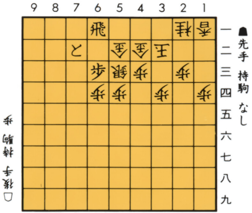
1図は舟囲いから☖5三銀☖4二金直の2手を入れた構えです。この形も数多く実戦で現れ、振り飛車党を悩ませます。

　まずは歩での攻略法から。

☗6四歩 ☖同歩
☗6三歩（2図）

　ここまで再三再四、と金作りの手筋を見てこられた皆さんには簡単なことだったと思います。

第2図は☗6三歩まで



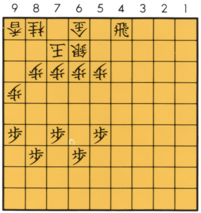
　ただこのような手筋が実戦で使えるかどうか、これが問題です。そのためにも体でピンとくるように感覚を養いましょう。

◎舟囲いの崩し方

舟囲いといえば対振り飛車の居飛車側の囲いの代名詞ですが、振り飛車の場合にでも、美濃に囲わず舟囲いにする場合もあります。例題を挙げましょう。1図は飛車を下段に下ろして持駒が金と歩。どうやって攻めれば一番効果的でしょうか。

第1図

☖後手 持駒 なし



☗先手 持駒 金 歩

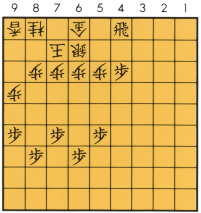
☗4三歩（2図）

これが効果的な攻め方で、☗4二歩成となれば次に☗6一飛成☖同玉☗8二金の必殺の寄せがあります。

と金を作れるチャンスがあるのなら、見逃す手はありません。

第2図は☗4三歩まで

☖後手 持駒 なし

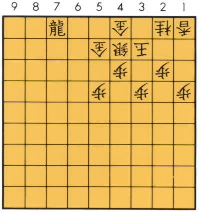


☗先手 持駒 金

続いて対振り飛車舟囲い。1図、いかにも堅そうな敵陣ですが、持駒の角をある置所に打つことによって一挙に崩壊します。

第1図

☖後手 持駒 なし



☗先手 持駒 角

☗2二角☖同玉

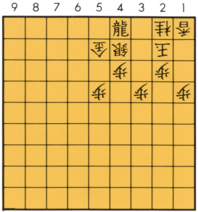
☗4一龍（2図）

☗2二角が急所。放っておくと次に☗1一角成があるので☖2二同玉と取りますが、☗4一龍と金を取ってなおかつ5二の金にあたっています。

以下☖5一金なら☗3二金があります。

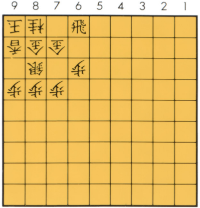
第2図は☗4一龍まで

☖後手 持駒 角



☗先手 持駒 金

第１図



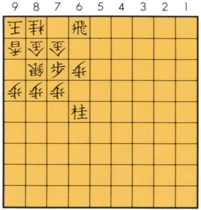
▲先手 持駒 桂 歩二

△後手 持駒 なし

変形穴熊をもう２題紹介しましょう。穴熊の戦いで長期戦になった場合によく出てくる構えです。

しかし攻め方は従来の穴熊攻略の手筋とほとんど変わりませんので、形にまどわされないようにして下さい。

第２図は▲７三歩まで



▲先手 持駒 なし

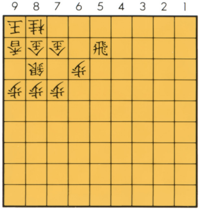
△後手 持駒 歩

１図、これはもうおわかりですね。急所は７筋です。

▲７三歩　△同金直
▲６五桂　△７二金引
▲７三歩（２図）

▲７三歩以下の攻めがスクラムを崩す常套手段だと覚えて下さい。

第１図



▲先手 持駒 銀 歩三

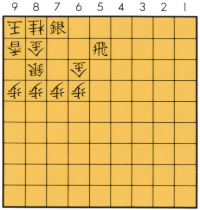
△後手 持駒 なし

本題はどうでしょうか。ゆっくりした手が間に合うのなら▲６二歩でも十分ですが、少し足早に攻めてみましょう。

▲６四歩　△同歩
▲６三歩　△同金
▲７一銀（２図）

習いある手筋で７二の金

第２図は▲７一銀まで



▲先手 持駒 歩

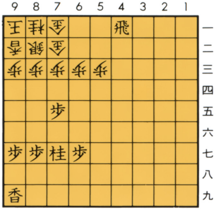
△後手 持駒 歩一

をつり出し、▲７一銀とかければたちまち詰めろです。以下△７二金とかわせば▲同飛成△同銀▲８二金までの詰み。

ですから▲７一銀に△７二銀なのに引く一手ですが、▲８三歩の軽手で受けなしとなります。

第１図

▲先手 持駒 歩三



△後手 持駒 なし

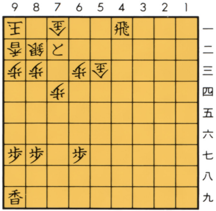
大駒が加わるとより一層破壊力を増します。

１図、まったく無キズの穴熊囲いですが、一連の手筋によってあっさり土俵を割るでしょう。手順が長いのでよく読んで下さい。

▲７四歩　△同歩
▲７三歩　△同銀

第２図は▲７二歩成まで

▲先手 持駒 歩



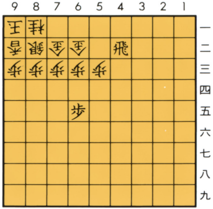
△後手 持駒 桂一 歩三

▲６五桂　△８二銀
▲７三歩　△同桂
▲同桂成　△同銀
▲６五桂　△８二銀
▲７三歩　△６二金寄
▲５三桂成　△同金
▲７二歩成（２図）

とにかく攻める場所は一点、７三の地点です。

第１図

▲先手 持駒 銀 歩



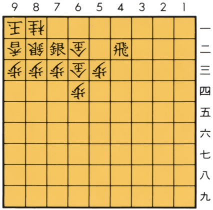
△後手 持駒 なし

１図は７一の金が６二にある穴熊で、これも相振り飛車の実戦などでよく見かける構えです。この形の急所は前題の７筋ではなく、堅そうに見える６筋がネライ目です。

▲６四歩　△同歩
▲６三歩　△同金右

第２図は▲７二銀まで

▲先手 持駒 なし



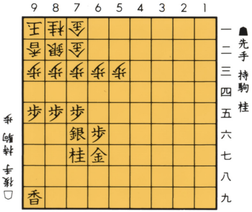
△後手 持駒 歩一

▲７二銀（２図）

ポンポンと歩の軽打で金２枚の連携を崩すのが攻略への近道。２図の▲７二銀まで、見事に穴熊城に取りつきました。

◎穴熊囲いの崩し方

第1図

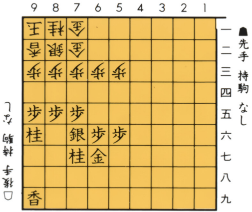


さあいよいよ穴熊囲いの登場です。堅さに関しては美濃囲いや矢倉囲いよりも堅く、何といっても絶対王手のかからない点が終盤の寄せ合いで大きな魅力です。

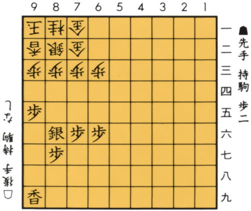
この穴熊、攻略法を知らずに戦えばこの上ない堅さに感じるでしょうが、攻めの手筋を知っていれば比較的簡単に攻略できる場合があります。

1図、持駒は桂だけですが前回習った手筋で簡単ですね。そう、▲9六桂（2図）と控えて打ち、次に▲8四歩を狙います。

第2図は▲9六桂まで



第1図

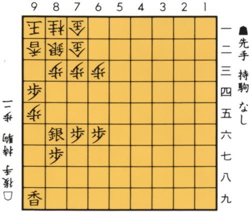


端攻めを絡めるのも美濃囲い同様、穴熊攻略の決め手になる場合があります。

1図、桂馬の参加していない攻めなので、端攻めがあるようには思えませんが、いやいや、歩を使って細かくせめる術があります。

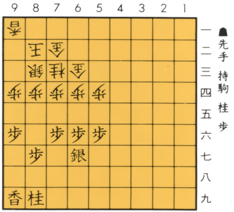
▲9四歩 △同歩
▲9五歩 △同歩
▲9四歩（2図）

第2図は▲9四歩まで



堅そうな端の守りですが、2図まで歩使いの妙で拠点を作りました。以下△同香なら▲8五銀△9三銀▲9四銀△同銀▲9八香打などを狙い、放っておけば▲9五銀と進出して十分。

第1図



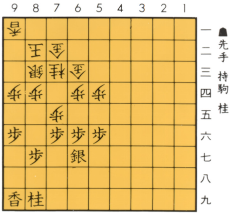
先ほどまでは大駒の力を借りた攻めをご覧頂きましたが、実戦ではそう思うようにはいきません。中盤の戦いで細かい攻めでリードをして、囲い攻略に大きな足がかりをつけることも大切です。

第1図は持駒が桂と歩しかありません。こんなので攻めになるのか！と疑問に思われる方も多いでしょうが、案外手はあるものです。

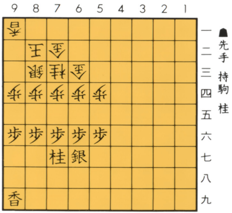
▲7五歩 △同歩
▲7六歩（2図）

第2図以下△同歩なら▲7五桂、放っておけば▲7五歩で大きな橋頭堡完成。

第2図は▲7六歩まで



第1図

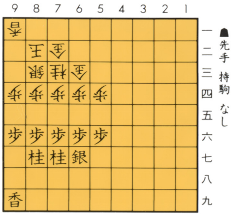


本題の場合はどうでしょうか。前回と違って歩がないので、継ぎ歩することはできません。でも持駒の桂を最大限に使ううまい手があります。

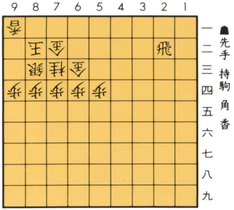
そう、格言にもありますね〝桂はひかえて打て〟と。もうおわかりでしょう。▲8七桂（2図）と力をためるのが正解。

これで次に▲7五歩△同歩▲同桂の順を狙うのです。実戦でこのような形が出てきたら、ぜひ思い出して下さい。

第2図は▲8七桂まで



第1図

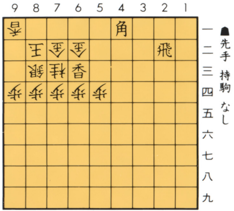


◎銀冠りの崩し方

美濃囲いが発展すると、高美濃、銀冠りと囲いの名称も変わります。

銀冠りの特長は上部に強く玉のフトコロが広いところです。ですから、粘らせないよう的確に攻めないと大変なのです。

第2図は▲6三香まで



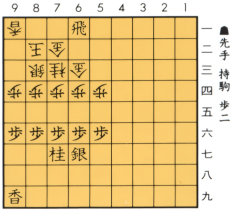
1図、銀冠りに対して飛車が敵陣に、持駒に角と香があります。強力な攻撃陣でこんな場合は比較的簡単に攻略できます。

▲4一角　△6二金引

▲6三香（2図）

飛車の横効きを利用した▲4一角が強烈であっさり。

第1図



今回は大駒が飛車1枚ですので、細かい攻めが要求されます。1図で玉頭攻めだとピンときた人はなかなか棋理に明るい人です。

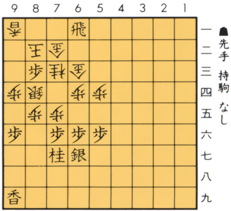
▲8五歩　△同歩

▲8四歩　△同銀

▲8三歩（2図）

銀冠りがいくら上部に厚

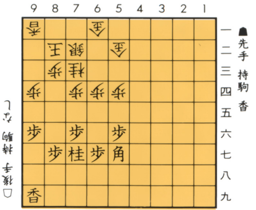
第2図は▲8三歩まで



いといっても、筋で攻めれば簡単に攻略できる好例です。

▲8五歩と突き捨て、▲8四歩と銀頭に打ち、▲8三歩の王手。大変覚え易い攻め筋です。これが瞬時にひらめくようになればよいのですが。

第1図

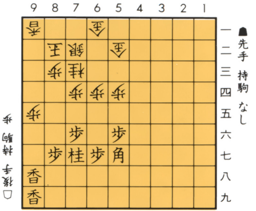


美濃囲いの最後は端攻めを2例紹介しましょう。

端攻めは美濃囲い攻略に欠かせない攻め筋の一つで、前回の寄せの奥義でもかなり解説しました。

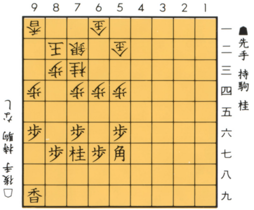
その時は歩の連打などの端攻めが主でしたが、今回はまた違った攻め方です。

第2図は▲9八香打まで



1図、持駒が香1枚ですが、5七の角が遠く9三の地点に利いてます。こんな場合じっと▲9八香打ちと重ねて打つか、あるいは▲9五歩△同歩▲9八香打ち（2図）のように、端に集中攻撃をかけるのが効果的です。

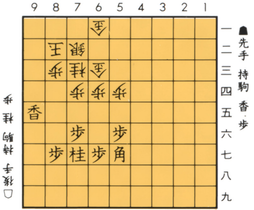
第1図



1図を前問と見比べてみて下さい。あれ？持駒が桂馬に代わっただけで一緒じゃないか。と思われるでしょう。そう、持駒が変わっただけなのですが、この場合は？

▲8六桂　△6三金
▲9四桂　△同香

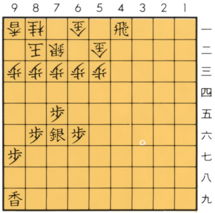
第2図は▲9五同香まで



▲9五歩　△同香
▲同香（2図）

▲8五桂はよく出てくる〃控え桂の手筋〃で、▲7四桂と跳ねられるのもたまりませんから△6三金と守りますが、逆に端にモーションをかけて2図まで、見事端攻めが成攻します。

第1図

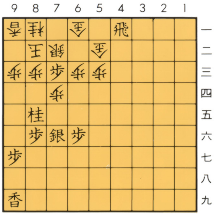


1図は前例の持駒・金銀の変わりに飛車が攻め駒に打ってあります。歩を使っての早い攻撃は

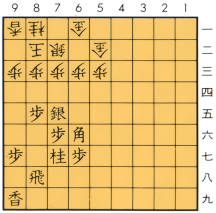
▲7四歩 △同歩
▲7三歩 △同玉
▲8五桂 △8二玉
▲7三歩（2図）

まず▲7四歩の攻めは当然ですが、△同歩に▲7三歩が疾風流。これを△同桂ですと▲7五歩と合わせ、△同歩に▲6一飛成△同銀▲7四桂以下詰み。で本譜の進行ですが、2図から△同桂でも▲同桂成△同玉▲8五桂△8二玉▲7三歩と同じように繰り返せばOK。

第2図は▲7三歩まで



第1図

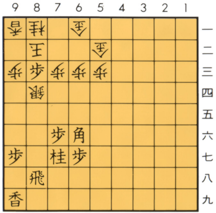


次に玉頭攻めを紹介しましょう。1図は〝攻めの基本は飛角銀桂歩〟のセオリーの理想的な構えで美濃囲いをにらんでいます。イッキにいきましょうか。

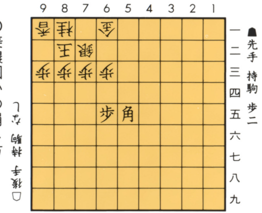
▲8四歩 △同歩
▲8三歩 △同銀
▲8四銀 △同銀
▲8三歩（2図）

▲8四歩は当然ですが、△同歩に▲同銀では△8三歩と打たれて攻めが続きません。そこで相手に受ける空間を与えない▲8三歩が急所の一着となります。そして2図まで、執拗な▲8三歩の筋を覚えて下さい。

第2図は▲8三歩まで



第1図



◎美濃囲いの崩し方

前回も美濃囲い攻略は重点をおいて解説しましたが、今回もやはり実戦でよく出てくる形ということで、多くの例を紹介したいと思います。

1図は攻め駒が角と歩だけですが、美濃囲いの急所の玉のコビンを攻めることによってかなりの戦果が期待できるのです。

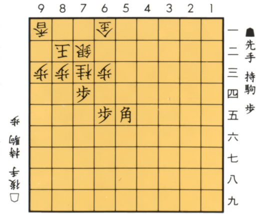
▲7四歩が急所の一手。

これで相手が放っておけば

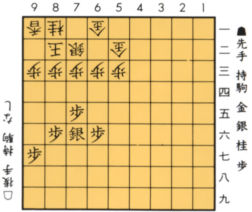
▲7三歩成 △同桂
▲7四歩（2図）

このように攻め、何度でもおかわり攻撃ができます。

第2図は▲7四歩まで



第1図



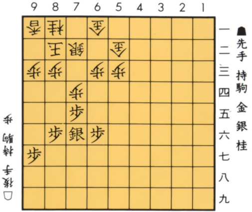
大駒がなくて細かい攻め筋を要求される場合もあります。

1図はガッチリ堅い金銀3枚の美濃囲い。どうやって攻略すればよいでしょうか。この場合も先ほどと同じく、玉のコビンを狙います。その手順は

▲7四歩 △同歩
▲7五歩（2図）

このようにコビンをつついていきます。放っておけば▲7四歩の取り込みが大きな拠点になりますし、△7五同歩なら▲7四桂△7三玉▲8二銀以下の即詰みがあります。

第2図は▲7五歩まで



谷川の将棋指南IIで好評をいただいた「谷川疾風流寄せの奥義」、さらにグレードアップしてお届けします。

基礎編ではいろいろな囲いの崩し方、そして実戦編では私が名人位に挑戦するまでのA級順位戦の九局、終盤の戦い方を解説しましょう。

初心者の方から有段者の方までできっと満足していただけると思います。それでは基礎編から、さっそく始めましょうか。

谷川浩司の
将棋指南Ⅲ

「続・谷川疾風流寄せの奥義」
基礎編　実戦編

おもしろ・げんきな㊢クラブ　只今、会員募集中！

PONYCA LAND

——めたんこトクするポニカランド——

ポニカユーザーのコミュニケーション・クラブ、「ポニカランド」では、只今、会員を募集中！毎回、話題の特集や最新ゲーム情報など満載の会員マガジン「ポニカランド」を中心に、楽しい企画がいっぱいのおもしろ・げんきなクラブです。

そのうえ、イベント大会や、
いきなりプレゼントなど特典がいっぱい！
こりゃ、早く入会しなきゃソンするぞ！

●**入会方法**　住所・氏名・年令・職業(学年)・電話番号を記入のうえ、切手600円分(一年分のポニカランド購読料)をそえて下記の宛先までお送り下さい。隔月発行のポニカランドを一年分(計6回)郵送いたします。

●**宛　先**　〒102 東京都千代田区九段北3-3-5　㈱ポニーキャニオン　ポニカ事業部　ポニカランド係

R58V5921

株式会社ポニーキャニオン
PONYCA事業部
〒102 千代田区九段北3-3-5

ファミリーコンピュータ®(ファミコン®)は任天堂の商標です。

写真/弦巻 勝 監修/谷川浩司

FOR SALE and USE IN JAPAN ONLY
本品の輸出、使用営業及び賃貸を禁じます。